

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
①豊かな心の育成	○人権学習・道徳教育情報モラル教育の充実	○道徳科などの時数を確保し、多様な教材や手法を用いた、人権学習、道徳教育、情報モラル教育を実施した。(ローテーション道徳、校内研修の実施) ○校内人権に関する意見発表会、阿波市人権講演会、携帯安全教室、デートDV防止教室、拉致問題などの学習を通して、生徒の人権意識・道徳性が高まった。9割以上の生徒が、人権学習や道徳の時間に真剣に取り組む、自分や友達の人権を大切にできていると考えている。(学校生活に関するアンケート調査より) ○インターネット(SNS)を通じてのトラブルに対して、個別・全体指導を行った。 ○拉致問題、インターネットによる人権侵害、性の多様性に関する問題など、新しい人権課題に取り組んだ。	A	○各種講演会やゲストティーチャーによる○教室などを引き続き行う。 ○保護者も含めた啓発活動を行う。 (講演会の案内、学校からの各種通信、生徒と保護者で共に考える機会の工夫)	A	○人権教育については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による医療従事者への偏見や差別などについての学習や指導も継続して下さい。
	○生徒指導の充実	○約8割の生徒が学校にいじめ等の悩みを相談できている。しかし、約2割ができていない現状がある。 ○9割を超える生徒が、学校の規則やマナーを守れている。 ○各種関連機関(スクールカウンセラー、ライフサポーター、児童相談所や市の相談員)との連携ができている。 ○学校に来られない生徒がいるが、その生徒に対する粘り強い支援ができている。 ○校則の共通理解を行う。	B	○保護者に対して、カウンセリングなどの子育て相談窓口を紹介する。 ○長期欠席者に対して、寄り添いながら相談活動や支援を継続させる。 ○保護者と連携しながら、粘り強い支援を継続して行う。 ○教員同士の共通理解を徹底し、生徒指導に努める。 ○保護者の意見を傾聴する姿勢をもって支援を続ける。 ○スクールカウンセラー、ライフサポーター等関係機関との連携を継続して行う。 ○礼儀・あいさつなどの伝統を継承し、自尊感情を育てていく。 ○時代の変化に対応した校則のあり方を模索しながら、生徒の成長を促す。	B	○全教職員共通理解のもと、全体への指導・個別の声かけ・2者面談・生活記録でのやり取りなど、日々の様子を見ながら早め早めに対応していますが、相談できていない生徒の割合が2割ある現状をふまえ、引き続き相談しやすい環境づくりをお願いします。 ○関係機関との連携も取りながら、相談的活動の継続をお願いします。いじめをする側のカウンセリングも必要だと思います。 ○不登校など複雑・多様なケースの解決に至っていません。今後も引き続き、きめ細かい指導と支援をお願いします。
	○総合的な学習の時間特別活動の充実	○職場体験学習等が実施できなかったが、講演会、職業インタビューや上級学校調べ、福祉体験学習などの体験的活動に主体的に取り組む、将来の生き方について考えることができた。 ○六稜祭や体育祭では、様々な制約がある中で、新型コロナウイルス感染防止対策など、生徒が主体的に考え、実施することができた。 ○委員会・ユニバース活動・各種行事などの異学年交流により、先輩から学び、後輩を思いやる気持ち、学年の壁を越えて学校や学年、自分自身をよりよくしていこうという気持ちも育むことができた。 ○校内美化に心がけていると考えている生徒が9割を越えている。(学校生活によるアンケート調査より)しかし、時間いっぱい清掃に取り組めていない生徒もいる。	A	○学校行事など活動の目的や狙いを生徒にはっきりと伝える。 ○時間いっぱい、清掃活動ができるよう指導する。教員も生徒とともに、清掃活動をし、校内美化に努める。 ○学習活動のふり返りを工夫し、適切な評価をする。 ○新しい生活様式に即した学校行事のあり方について生徒とともに考える。 ○Withコロナの中で、職場体験学習のあり方を検討する。	A	
②特別な支援教育の推進	○授業改善の推進	○全体としては8割以上の生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。2年生については約2割の生徒が授業に十分な意欲が持てていないのが課題である。 ○家庭学習の習慣は、学年によってばらつきはあるが、全体の約4割の生徒・保護者が不十分と答えているのが大きな課題である。 ○ICT機器を活用した授業がかなり進み、その活用方法などを共有することができた。	B	○授業の最後や単元末などに、各自が学んだことのふり返りを行い、自己評価や感想を書く時間を設定する。 ○教員間で共通理解を図り、適切な分量の課題を与える。 ○教科の授業や学活等で、家庭学習の必要性を理解させ、より具体的な自主学習や家庭学習の方法を提示し、家庭学習の定着を図る。 ○教材を精選して、生徒に合った教材を選択する。 ○授業や学校行事の中で、「話す」、「書く」などの活動を重視する。 ○タブレット端末の使用法やルールを明確にするとともに、教師側が活用方法について研修する。 ○授業交流週間を利用して、互いに授業実践を公開し、実践した内容を共有し、授業の改善策を考える。	B	○来年度から導入される1人1台タブレットをどう活用し、授業に取り入れていくかが課題であるということですが、効果的な活用により、生徒の意欲や興味・関心がさらに高まることを期待しています。 ○家庭学習の習慣を身につけさせるために、宿題の量や出し方の工夫も必要ではないでしょうか。
	○キャリア教育の充実	○8割以上の生徒が将来の進路について考えることができた。 ○各学年の発達段階に応じたキャリア教育の推進ができた。 ○保護者・教員でキャリアパスポートを活用したキャリア教育ができていると答えた割合は低かった。	B	○職業インタビューや職場体験学習、進路希望調査等を通して、家庭で将来について話し合う機会を持たせる。 ○ゲストティーチャーによる出前授業を積極的に計画・実践し、将来について幅広く考える機会を持たせる。 ○キャリア教育とは何かを生徒・保護者に伝え、具体的にどのような取組をしているのかを学年通信や学校のホームページなどを通して発信する。 ○キャリアパスポートを適切に活用し、次年度につなげる。	B	
	○特別支援教育の充実	○特別支援学級の授業では、どの生徒も真剣に取り組むことができる。 ○特別な支援が必要な生徒について、保護者や関係機関と連携がとれている。 ○通常学級で個別の支援が必要な生徒への支援が十分でない。	B	○全校体制で特別支援教育に取り組めるようにする。 ○教員間で個別の指導計画を共有し、個々の実態に応じたきめ細かい支援を行う。 ○「誰もがわかりやすい」を合い言葉に、インクルーシブな授業や学校生活ができるよう工夫する。 ○生徒理解のために適宜時間をとり、教員間で共通理解を図る。通常学級で支援が必要な生徒に対して個に応じた支援をする。 ○特別な支援が必要な生徒が増加している現状をふまえ、将来をみこし、計画的に教育課程の立案や教育環境の整備を行う。 ○特別支援学校や医療機関、放課後デイサービス等関係機関と連携する。	B	○今後とも保護者や関係機関との連携を図りながら、個別の支援が必要な生徒に対して、全校体制で取り組んでいただきたいと思います。
③健康・安全教育・食育の推進	○健康教育の充実	○目標期間を経て、生徒の体力低下が感じられたため、体力づくりのための活動を取り入れた。また授業内容を実施に合わせて設定し、熱中症・怪我・感染症の予防に努めた。 ○保護者の送迎による登下校が増えている。体力向上のために、生徒自身の自転車や徒歩での登校を体育委員会活動を中心によびかけた。 ○「健康力アップ30日作戦」の前に、自分自身の生活をふり返る機会を設けたことにより、具体的な目標設定ができた。98%の生徒が30日間実施できた。(寝る直前に携帯電話を触らない。意識して野菜を食べる。毎日歩く。1時間早く寝る。ゲームを控えるなど) ○生活習慣に関するアンケートの実施により、現状を把握することができた。94%の生徒が規則正しい生活を送ることができていると答えているが、実際はメディア使用時間が長く、睡眠時間が削られている状況があることがわかった。アンケート結果から、生徒の生活習慣の課題をみつめ、メディア依存やゲーム傷害の授業を行い啓発することができた。 ○感染症予防対策として、手洗い、手指消毒、換気、マスク着用を呼びかけ、意識を高めることができた。給食前の消毒や、放課後の校内消毒も実施できている。その結果、今のところ、校内で感染症は	B	○次年度は「健康力アップ30日作戦」の目標設定の項目を絞って取り組んでいく。 ○委員会活動の活性化を図る。(生徒が主体的に、健康力アップや生活習慣の改善につながる活動に取り組む) ○養護教諭や栄養教諭と連携しながら、生活習慣等健康についての授業を充実させていく。 ○感染症対策の徹底を継続する。衛生面について、担任・学年団からの呼びかけを行う。	B	
	○安全教育の充実	○9割以上の生徒が交通マナーを守り命を守るための行動をとれていると回答している。 ○避難訓練の計画を見直し、実際の災害を想定し、生徒が自分の命を守るために、主体的に考え行動できるような訓練を計画し実施することができた。また、交通安全や災害教育についてなど集会等で呼びかけ、注意喚起や指導をすることができた。 ○学校の施設設備と通学路の安全点検については、保護者や市役所と連携し、カーブミラーの設置等危険箇所の改善をした。保護者と連携をとり、緊急時の連絡体制の確立、避難場所の確認等を行うことができた。 ○ユニバース活動で地域防災マップを作成した。生徒の目線で危険な場所がわかり、生徒が主体的に考え、防災について注意喚起できるような防災マップを仕上げることができた。	A	○不審者対応などのマニュアルの見直しをする。具体的な対応が明確でないこともあるので、全教職員で共通認識を持つ必要がある。 ○生徒の意識を高めるため、予告なしの避難訓練や避難経路が通行できない状況での訓練など様々な状況を想定した避難訓練を実施する。 ○作成した地域防災マップを、色分けして強調したり、避難場所がよく分かる工夫をしたりすることで、より分かりやすいものを作成する。	A	○安全教育の充実について、交通マナーの指導の徹底をお願いします。夜間の自転車通行は危険であるので、自転車に反射鏡をつけたり、反射タスキを活用したりはどうか。また、各部のウインドブレーカーの色も考慮してください。今後も引き続き、命の大切さ、自分の命は自分で守る安全教育をお願いします。 ○今年は、予告なしの避難訓練や場面・目的を明確にした避難訓練が実施できました。また、防災マップを作成することで、防災意識の醸成ができていると思います。
	○食育の充実	○栄養教諭と連携した食育の授業を計画的に実施し、朝食の重要性など自らの食生活をふり返ることができた。(1,3年生) ○給食時間の(栄養教諭による)指導は、感染症拡大防止の観点からとりやめて、衛生的な配膳方法の指導に切り替え、これを徹底できた。 ○放送委員会の放送を通じて、食に関する関心や感謝の心等の視点を踏まえた啓発を行うことができた。	A	○計画的に食育の授業を実施し、自らの食生活をふり返り、好ましい食生活について指導を続ける。 ○給食時間中の衛生的な配膳指導を継続させる。	A	○阿波中学校の残食量が他校と比較して少ないです。地産地消を推進し、食べ物を大切にすることの心の育成の観点からも、給食を残さず食べていることはよいことです。今後も引き続き食育の推進をお願いします。
④開かれた学校	○家庭・地域社会・関係機関との連携	○コロナ禍の中、オープンスクールなどの地域との直接的な連携は十分に行えなかったが、家庭訪問を積極的に行うなど、できる範囲で工夫して取り組めた。 ○学校通信、学年通信等の広報活動を毎回欠かさず発信することができた。 ○スクールカウンセラーや各専門機関とも十分に連携をとり、生徒指導に活用できた。 ○アンケートの結果からも、学校と家庭の連携はある程度できていると考えられる。	B	○コロナ禍を考慮して、オンラインによる学校行事の映像配信を検討する。 ○地域のゲストティーチャーの出前授業についても、オンラインの使用を検討する。 ○学校通信や学年通信等は、事前に生徒に読み伝えて理解させ、確実に家庭に伝わるように意識づける。 ○スクールカウンセラー等と連携して情報を共有し、家庭訪問や電話連絡等で家庭との連絡を密にとり、生徒理解や保護者理解に努める。	B	
	○校内研修の工夫改善と計画的な実施	○本年度は、GIGAスクール構想についての研修や、ICT機器を用いた研究授業、スマホ利用についての研究授業も行うことができ、充実した研修を行うことができた。 ○メンター研修を実施して、ミドルリーダーや若手教員の育成に成果をあげた。 ○授業交流の期間は設けられたが、時間や機会が確保できなかった。	B	○今後も時宜に応じた様々なテーマで研究授業を行う。 ○研修内容を教員相互で共有できる環境をつくる。 ○メンター研修に様々な教育課題を取り上げてさらに充実させていく。 ○授業交流の方法を見直し、気軽に互いの授業を参観できる雰囲気構築する。 ○道徳や学活の時間を学年でずらすなどして、各担任の指導法を学び合えるような時間割を工夫する。	B	○メンター研修などにより充実した研修が行われています。今後も、目的を明確にした計画的な研修を推進して下さい。
⑤業務改善	○業務改善に向けた取組	○グループウェアを全員が使用することで、自身の勤務時間の実態を把握することができた。 ○長期休業中に年休を取得することができた。 ○「ノー残業デー」「ノー部活デー」は設定したが、認識に個人差が見られた。 ○課題を共有して、教員が互いに支え合う信頼関係ももてた。	B	○個人で目標を設定するなど、勤務時間を意識した業務を行う。 ○勤務時間の見直しをする。「ノー残業デー」を徹底する。 ○ICTを活用することで業務の効率化を図る。また、効果的な活用のための研修を行う。 ○有給休暇を有効活用し、相互に補完し合える職場環境の醸成を図る。 ○部活動の適正化を検討していく。	B	○「働き方改革」のさらなる推進をお願いしたい。 ○部活動の時間、指導内容、効率化など、これからの部活動のあり方を検討し、活動の適正化について検討していただきたい。